

天遊 Ten You

大阪教育大学広報誌

OSAKA KYOIKU UNIVERSITY
PUBLIC INFORMATION MAGAZINE

2019 特別号

学生プロデュース

Athlete's View

TOPICS

附属学校園ウォッチ

特集
1

学長対談「子どもたちの未来のために」

特集
2

学生座談会「どうして大教へ？」

大教大
NAVI

天

アプリを利用すれば、今号の「天遊」に関連した動画が視聴できます。

「大教大NAVI」アプリをダウンロードして、左記のアイコンと同じボタンをアプリ内でタップするとカメラ画面に切り替わります。次に左記のアイコンをカメラに読み込めると、動画が視聴できます。

詳しいアプリの使い方はホームページをご参照ください。



国立大学法人
大阪教育大学



SPECIAL TALK

Sumio Kuribayashi

Shouichi Yanagimoto

学 長 対 談

子どもたちの 未来のために

～能力を引き出す人材育成術とは～

大阪教育大学長

くり ばやし すみ お

栗林 澄夫

富山大学文学部卒、
大阪大学大学院文学研究科
修士課程修了、文学修士。
大阪教育大学理事・
副学長を経て現職。
昭和23年生まれ、70歳。

アテネ、北京オリンピック バレーボール全日本女子チーム監督 / 一般社団法人アスリートネットワーク 理事長

やなぎ もと しょう いち

柳本 晶一

大阪商業大学附属高等学校卒、全日本女子バレー代表監督として、平成16年5月開催のアテネオリンピック世界最終予選では開幕6連勝を果たして2大会振りの出場権を獲得。同年8月開催のアテネオリンピックでは5位、さらに4年後の北京オリンピックでも5位の成績を残すなど、全日本女子バレー復活に貢献した。平成22年には関西を拠点に五輪出場経験者らとともに「一般社団法人アスリートネットワーク」を立ち上げ、トップアスリートの経験と感動を次世代に伝え、スポーツの価値向上と将来の日本の希望を育む様々な活動を進めている。平成25年には、大阪市立桜宮高等学校のスポーツ指導刷新のために「桜宮高等学校改革担当」に就任し、専門的な見地から助言・指導にあたった。昭和26年生まれ、67歳

低迷していた全日本女子チームを
アテネ、北京の2つのオリンピックへ導き、
全日本女子バレー復活請負人と呼ばれた柳本晶一氏。
監督時代に培った選手への指導法や
日本のスポーツ界が直面する課題について、
栗林澄夫学長が伺いました。

東京オリンピック・ パラリンピックを契機として

【栗林】

2020年の東京オリンピック・パラリンピックを迎えて日本では若者が様々なスポーツの種目で活躍しています。さらに、大阪万博が2025年に開催することが決定するなど、日本の発展が期待できるビックイベントが続きます。

【柳本】

ラグビーワールドカップ2019日本大会、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会、ワールドマスターズゲームズ2021関西と大規模な国際スポーツ大会が日本で連続して開催されますが、我々はこれを「ゴールデン・スポーツ・イヤーズ」と呼んでいます。スポーツには「見る、支える」など様々な関わり方がありますが、スポーツの価値を発信することにより、スポーツに携わる人々のすそ野を拡大していくことは重要だと思っています。私はオリンピックで選手、そして監督として、メダルに目標を定めて全力で戦いましたが、「一生懸命努力したからといって必ず成果が出る」とは限らない。そんな世界だからこそ価値があるのではないのでしょうか。

【栗林】

成果が出ない時期を乗り越えて、目標や希望をもって取り組む姿勢がビュアな姿として感動を与えるのでしょうか。現在のオリンピックは、国や競技団体の威信をかけてプレーする側面もありますが、元々は選手が「好き」とか「挑戦すること」いった純粋な気持ちで競技に取り組むことが動機だったのだと思います。我々が携わっている教育の分野では、目標や希望をもって取り組む学生をどのようにサポートしていくのが課題になっています。

【柳本】

選手が自主的に何かにチャレンジして壁にぶつかった時に知恵を借り、挫折してもまた這い上がっていく術を学ぶことは、バレーボールでも有効な一つのツールといえます。指導者が選手に寄り添ってサポート活動を行う、つまりプレイヤーズファーストでなければなりません。選手時代に経験してきたメンタルの部分を教え込む指導者は多くいますが、これは明らかに間違った指導法です。

私は監督を約30年間務めました。下手は絶対下手で終わることはないという信念で指導し

てきました。子どもの伸びるスピードは十人十色で異なりますが、諦めずにトライすれば能力は必ず伸びます。指導者として必要なことは、選手が達成した瞬間を見逃さずに「できた、それだ」と声を掛けて、その瞬間にグジメをつけてやることです。「今回できたから、次はこれができるよ」とか、不確定なことを言うてはいけません。私が現場にいた時は、選手が達成した瞬間を見逃したくなかった。30年間ベンチに一度も座ったことはありませんでした。指導者が見逃した瞬間というのは、その子にとって一生に一回の瞬間なのです。現場ではそれぐらい、子どものことを真剣にみなければ伸びない。それができなかつたら指導者が仕事を半分放棄しているのと同じです。

【栗林】

東京オリンピック・パラリンピックを契機としたスポーツ界の改革が新しい局面を生み出し、他の業界に波及していれば、我が国にとっても素晴らしいことです。教育界でも改革を推進していかなければなりません。世界に目を向けますと、戦後は政治的には旧ソビエトとアメリカを中心とする冷戦時代が長く続きました。2大勢力の均衡により世界経済は発展しましたが、多くの国は安定した世界情勢をみながら、この間に教育改革を行いました。私は学長に就任してから5年目を迎えますが、学校間接続の認識を持つて対応できる教員の育成を念頭に、平成27年4月に私立大学との連合教職大学院を設置し、さらに平成29年4月に学部改組を行いました。諸外国における教育改革の時期と比べると遅いといえますが、漸く日本の先頭を走る改革の段階に至ってきたと感じています。

トップアスリートの セカンドキャリア構築

【栗林】

現在、一般社団法人アスリートネットワークの理事長として、様々な活動を通してスポーツの魅力を発信されています。

【柳本】

アスリートネットワークを設立した背景として、日本ではトップアスリートのセカンドキャリ

ア支援が大幅に遅れている点が挙げられます。

選手はオリンピック後に目標を見失ってしまうと、真っ白に燃え尽きてしまいます。1年〜2年と必ず波はきますが、その間に世間から忘れられて、さらに自信も失ってしまうのです。そこで私は、各競技団体の縦割りだった垣根を取り払い、競技種目を超えてトップアスリートが集うアスリートネットワークを設立しました。選手自らが成長の過程で得た経験を子どもたちに伝えること、セカンドキャリアの構築がその目的になります。発足当初から、団体の趣旨に賛同した主体性のある選手が何十人と集まりましたので、充実したイベントを運営することができましたが、その時に私は、3つの自「自信、自律、自立」を大事にしようと言いました。忘れていた自信を取り戻し、自分の力で困難を乗り越える努力をして、自立していくということです。

【栗林】

仕組みを変えていくためには、垣根を取り払うことが必要ということですね。

【柳本】

過去の負の遺産も含めて、仕組みを見直していくことが必要です。既成概念や慣習にとらわれることなく、垣根を取り払うことで、異なる個性がそれぞれ補完して新しい価値を生み出している可能性があることに気づくべきです。

指導者としての心得

【栗林】

人材育成は課題も多く、改めて難しいことを痛感しています。指導者としての心得を「教示い

ただけですか。

【柳本】

教師を目指している人は教員免許を取得した時が一番輝いている時期だと思います。でも本当に重要なのは免許を取得した後になります。これまで培ってきた経験や知識を子どもに教える時には「私は教員になって「こういうことをしたい」という志を持ってほしいと思います。成功する人は、何があっても最後まで諦めません。最初から成功することを考えているので、挫折したとしても「これは成功するための壁だ」と前向きにとらえ、諦めないでやり抜いて成功します。一方、最初から「こんなミスをしらうしよう」と考えてしまうと、挫折した時に「最初思っていたとおりだ」と執念が続かなくて成功しません。

それから指導者は、絶え間なく自分磨きを行うことが必要です。私は28歳で新日鐵の監督に就任しましたが、最初はどのように指揮すればよいのか全く分かりませんでした。当時、新日鐵の東京本社関係者に「ラウンジに連れて行っていただいたのですが、そこで読売巨人軍の監督と同席することになりました。」こちらは柳本という者ですけども、これから新日鐵の屋台骨を支えていく男なので、監督「どうかアドバイスしてやってください」とね。すると私の前に座っていた巨人の監督は2回頷いた後「土をいじりなさい」と助言くださいましたので、自宅のベランダで盆栽を始めました。監督は孤独ですから、家族に言えないこともあります。盆栽の世話で土や水をいじっていると不思議とストレスが発散されるので、良いリフレッシュ方法を教えてもらったと今では感謝しています。扱っているのは植物ですから、日ごろから丹精込めて目をかけたとしても、時期が来なければ花は咲きません。そ



の時期が来るまで辛抱するからこそ、咲いた花が美しくみえて、感動を与える。人を育てること共通していますね。でも、マニュアルどおりにやれば、立派に育つというわけではありません。盆栽でいえば、木が水を欲しがる瞬間に適量の水を与えると、100%吸い上げてくれます。水を欲しがる時期は、木によつて3日目、5日目、10日目とそれぞれ異なりますので、水を与える時期が遅ければ枯れますし、早すぎると95%しか吸わないクセがついてしまいます。30年ほど監督をやらせていただきましたが、経験を積みは積むけど、もつと選手の能力を伸ばすことができたのではないかと反省しています。指導者は選手の成長速度を見極めるために、常に真剣勝負で選手と向き合わなければいけないことを、盆栽を通して教えられましたね。

【栗林】

人材育成の極意を教えてくださいましたような気がします。適切な時期に適切なアドバイスがあつてこそ初めて人は育つていくのですね。

【柳本】

女性の集団には目に見えない序列が存在します。チームをつまくまとめるには、個性の異なる2トップで引つ張っていけば、大概うまくいくと思います。私は壁を乗り越えてもらうために、選手に限界を超えた要求をしましたが、1人だと不平不満を言つてやめて終わります。でも、2人と文句を言いながらも、お互いを意識して壁を乗り越えようしてくれるのです。女子の監督就任当初は、その辺りがわからなくて苦しみましたね。女子の監督をして、色々勉強になりました。

教師を目指す 学生へのメッセージ

【栗林】

最後に、本学の学生に向けてメッセージをお願いします。

【柳本】

2012年に大阪市立桜宮高等学校で顧問に体罰を受け生徒が自殺した事件が起こりましたが、私はスポーツ指導刷新のために同校の改革に携わりました。当時の桜宮高校は、校内のガラスが割られたり、生徒の自転車パンクさせられたりと、風紀が乱れていました。私はその時に、生徒に2つのことを伝えました。1つは、生徒たちにとって桜宮高校は卒業してから故郷になるわけですから、「誇りを持ちなさい」と言いました。そしてもう1つは、「金メダルを目指しなさい」と言いました。高校時代に、切磋琢磨して得た知識や経験は次のステージに進んだ際に必ず活かされるものだと思います。限られた高校生生活を全力投球し、全員が幸せという金メダリス

【柳本】

人はそれぞれ個性が違いますからね。毎日練習していると、指導者も人間ですから、この選手ならやってくれるだろうと情も湧きます。でも、指導者は選手を信頼してもよいのですが、絶対に信用してはいけません。バレーに例えていうと、バレーボールはミスのスポーツと言われています。ミスが多くても勝つことがあるし、逆に完璧に近いバレーをして負けることもあります。勝った瞬間、選手とスタッフは抱き合つて喜びますが、負けたら必ず指導者が責任を負わなければなりません。指導者はその時に敗因を受け止めて、次の方向性を出すのもちろんのこと、ある時は背中を押してあげることが大事だと思います。バレーボールは団体競技の代表のように言われますが、勝つという目標を持った時には、個人競技の側面が非常に強いです。コートに立つ6人には、「上げる、打つ、拾う」とそれぞれに役割を与えますが、その役割を一切妥協せずにきちっと仕

トになつてほしいと願いを込めて言いました。大阪教育大学の学生も、誇りと志をもって教壇に立ち、人生の金メダリストを多く育ててほしいと思います。

【栗林】

ありがとうございます。

これまで教員養成大学は、教科による専門的知識の習得に重点を置いてきましたが、現在の役割や使命は大きく変わってきていると思います。教師には、学級をマネジメントするだけでなく、いじめや不登校の問題に対応していくために生徒の個性を見極めていく能力が求められています。先生の話を伺いして、我々も教員を育成していく中で、同じような課題を克服していく必要があると実感しました。希望をもって、今後学生の育成に取り組んでいきたいと思っています。



全日本女子バレーボール監督としての経験

【栗林】

学校現場では学級崩壊を起こさないためにも、教師にはクラスにおけるマネジメント能力の向上が求められております。グループを上手にまとめるヒントがあれば教えていただけますか。

【柳本】

私が全日本女子バレーボール監督に就任する前までは、全日本は日本のナンバー1チームのメンバーが招集されていました。そこにメスを入れ

どうして大教へ？

— What brings you to OKU? —

学部生の8割近くが近畿圏出身の大教。そんな本学へ、遠く北海道、沖縄、エジプトから入学した3人に、大阪出身の学生が、大教を選んだ理由や今の学生生活について聞いてみました。



おお しろ ひろと
大城 公人さん
教養学科文化研究専攻
日本・アジア言語文化コース
3回生
出身：沖縄

さく や ゆう き
菊谷 優希さん
教育協働学科
スポーツ科学専攻
2回生
出身：北海道

エルハリージ ファドワ
ELKHALIGI FADWAさん
学校教育教員養成課程
中等教育専攻英語コース
2回生
出身：エジプト

よし むら しゅん た
吉村 駿汰さん
学校教育教員養成課程
数学教育専攻中学校コース
4回生
出身：大阪

ただ、第一志望にしました。

吉村 大教と言えば「山」ですよ。あとのお二人は、初めて大教に来たのはいつですか？その時の印象は？

大城 入試の前日に下見に来たのが最初でした。大阪の大学だから都会だと思っていたので、びっくりしました。

菊谷 私もまったく一緒です。エスカレーターがあることも知らなかった。試験前にお母さんと見に来て、山に登りながら「ここであつてよね…」と不安になりました。

吉村 大阪の印象は？

ファドワ にぎやかで、人が多い。エジプトみたい。大阪の人たちはとても優しい。私はすぐ道に迷いますが、東京では泣くまで誰も助けてくれなけれど、大阪は泣く前に助けてくれる。

菊谷 私も温かい人が多い印象です。コテコテの関西弁の人ばかりかと思ったら、そんなことはない。楽しませてくれる人が多いですね。

吉村 北海道と違うところは？

菊谷 やっぱり気候ですかね。雪もないし、冬はすごく楽です。夏は大阪の方が暑いですが、北海道でも30度を超えたりして結構暑いので、大きな違いは感じません。

吉村 これで案か…。沖縄は？

大城 私は反対に冬が辛いです。こっちは本当に寒いですが…。沖縄の夏は、カラッとしているので、大阪の方が暑く感じます。

ファドワ エジプトはずっと暑いというイメージがあると思うけど、暑い時期と寒い時期があります。日本と比べ、夏は気温は高いですが湿度が低く過ごしやすい。冬は日本より湿度が高い。日本の冬は本当に乾燥し過ぎです。

地元を離れる不安、大阪での暮らし

吉村 そんな気候の違いも含めて、地元にした時は生活がかなり変わったんじゃないかと思えます。大阪で一人暮らしするのに不安はなかったですか？ 普段の生活について教えてください。

大城 大学の近くにアパートを借りています。大阪は治安が悪いイメージがあつたので、来る前にインターネットで「大阪」「ひたたり」などで検索したりしました。生活面も、実家では家事をしながらだったので心配でした。普段は、家事をやりながら勉強、部活、バイトをしています。学期末はテストやレポートがあるので、ちょっと大変。空き時間に少しづつやらないとダメですね。

菊谷 私は学生宿舎に住んでいます。一人暮らしがしたかったので不安はなかったですが、家事はやっぱり心配でした。毎日お弁当を作ってくれていたお母さんはすごいなと思います。普段は勉強、バイト、サークル、習い事をしています。柏原キャンパスのエスカレーターは19時で止まるので、

夜遅くなると山登りをしないといけないのがしんどいです。自転車を正門の駐輪場に停めて、階段を上っています。

吉村 原付バイクじゃないのか！それは大変。ファドワさんは？

ファドワ 一番不安だったのは、大阪弁が聞き取れないんじゃないかということ。あと、大教では日本の学生たちと同じ内容を日本語で勉強するので、ついて行けるか不安でした。でも、皆の話を聞いているとファドワは暇すぎる…

吉村 大城 菊谷 えっ、そう？

ファドワ エジプトの大学生は、バイトはせず、勉強だけで、親からお小遣いももらっている。日本の学生はとても素晴らしい、頑張っていると思います。だから日本に来て、私も同じような大学生を送りたいと思ったけど、マイペースにやっているから、みんなほど忙しくない。

吉村 そんなことはない。母語はアラビア語なのに、英語の先生になるための勉強を日本語でしているんでしょ？ こっやって話しているだけでも外国語の勉強をしているってことだし、すごいと思

大阪教育大学(以下、大教)を選んだ理由

吉村 なぜ、大教を選んだのですか？

大城 大学は沖縄から出たい、都会に行きたいと思っていて、大阪が東京だなと、教育学部をめざしていたので、学力や受験倍率などを考えて大教に決めました。

菊谷 私は高校生の頃にハンドボールをやっていたので、女子ハンドボールの強豪校として大教を知っていました。国立大学で、しっかりスポーツを学べるところがいいと考え、第一志望を関東の大学、第二志望を大教にしました。

吉村 ファドワさんは、そもそもなぜ日本に？ 先生にならなくて、大教に来た？

ファドワ エジプトの大学で日本語を専攻していました。3年生の時に京都の幼稚園で3か月インターンシップをしました。毎日子どもと遊んでとても楽しかった。でも、いい先生になるにはもっと勉強しないといけないと気づきました。エジプトに戻って、日本で教育の勉強をしたいと思うようになり、留学を決意しました。インターンシップの間に日本各地に行き、関西が一番好きだと思いました。本当は、勉強あまり好きじゃないんですけど…でも、大教では教育に関する授業が多いので80%楽しい。

吉村 80%なんだ！エジプトにいる時は大教のこと知らなかったでしょ？

ファドワ 知らなかったです。実は大阪大学に教育学部があると勘違いしていた、ないと知った時はショックでした。でも、大教という西日本で一番大きな教師を育てる大学があると教えてもらいました。最初に大教に来た時は山で大変だと思っ

う。多分一番忙しくないのは私。4回生で授業はほとんどないし、卒論ももう終わるし、バイトも塾だけ。実家暮らしで、家事とかもしないから、一人暮らしの友達の話や聞くとなんだか申し訳ないような気持ちになります。

ファドワ 最初は勉強が大変だからバイトはやりたくない方がいいと思ひ、始めたのは1回生の終わり頃。日本で使われている教科書とか何も知らないから、知りたいと塾で働き始めました。中学生との関わりが多くなって、楽しいです。

吉村 十分頑張っているじゃないですか。友達はずいぶんできましたか？

ファドワ はい、みんな私のことが気になるから、たくさん話しかけてくれるし、話を聞いてくれます。吉村 その辺りは関西人のグイグイ行く所ができていますね。

菊谷 北海道ではそういうのはないですね(笑)。私の専攻は、関西出身ではない人が結構多いです。スポーツが学べる国立大学って少ないので、最初は同じスポーツ種目をやっていた人と一緒にいることが多かったですね。

大城 私の専攻は、女子のほうが多いので、その分男子が仲良くなります。北海道の人もいて、遠くから来た者同士仲良くなったりしました。

菊谷 私はバイトで水泳のコーチしているのですが、子どもたちに「ビート板しまっ」ではなく「ビート板おして」と言わないと聞いてくれな感じです。イントネーションも、少し関西にあわせただ方が、話が盛り上がりやすい。何か大阪もしくは日本に来てびっくりしたことはありますか？

大城 電車。最初は乗り方がわからなかった。

ファドワ 私はバスに乗るのが難しい。乗るバス停を間違えて、いつも逆方向に乗ってしまう。日

本に来て驚いたのは、道にゴミ箱がないこと。それなのに、道がきれい。歩いている時に「ゴミを捨てたくなったらどうするんだろう」と思います。あとは、関西弁と知らずに関西弁を使っていることがあって、標準語と混乱する時があります。

吉村 関西人は、気にせず誰にでも関西弁で話す傾向にあるから、影響されますよね。大阪に来る前と後で、変わったなと思うことはありますか。話に笑いを求められたりしません？

大城 私は相手がボケていることに気づけず、放置して可哀想なことをしてしまっ。ツッコミのスキルが上がる以前に気づけない…。変わったのは、声がちよつと大きくなったこと。大阪の人は声が大きくて、沖繩にいた時の普通の声が、こっちはみんなから小さいと言われます。

吉村 ボケに気づかないのか…。声が大きくなったっていうのも面白いですね。菊谷さんは？

菊谷 人によりですけど、「オチないの」が言われますね。関西の人は頭の切り替えが早くて、最初はついて行くのが大変だった。話すスピードも速い。大阪に来て、話す力がつきました。

吉村 確かに、「ここを何と言ったら面白いかなとか常に考えている。大阪ほど話す力がつくところはないかもね。」

菊谷 そういう力は、就職活動や社会に出た時に役に立つなと思います。

ファドワ 私は、お金が管理ができるようになりまし。エジプトで大学生をしていた時も一人暮らしだったけど、何かあれば親が近くにいて助けてくれた。今は年一回しか会えないし、自分で頑張らないと、飢えて死ぬかもしれない。だからお金を考えて使うようになったし、独立心が身につきました。ご飯も自分で作るようになった。それで自分が料理好きなことに初めて気づきました。

菊谷 私もお金のことはお母さん任せだったけど、今は自分で考えるようになりました。

大城 奨学金をもらっているの、無駄遣いしないようにしています。ご飯を作り置きして食費を抑えたりしますね。

吉村 私はまさに、全部親にやってもらっている状態。一人暮らしを始めたらずいぶん死ぬかも。

ファドワ 逆に一人暮らししたくない？

英会話教室をやっています。子どもから生の関西弁を聞く勉強になるし、一人一人性格が違う子どもとたくさん触れ合うことでいい教師になれるかなと思っています。でもいい先生になれるかはわからない…。

吉村 なるよ！そういう経験は生きてくる。教師になったら、1クラス40人とか、たくさんいる子どもたち全員のことを考えないといけない。いろんな子どもと関わる経験を積んでいけば、あの時のあの子に似ているなっていう対応しやすくなる。

菊谷 私は、去年ハーフマラソンに挑戦しました。北海道だと11月から4月ごろまで雪が降るので、冬は外で走れない。大阪は年中走ることができていいですね。

吉村 皆いろいろやっていてすごい。私は一人暮らしを始めたらずいぶん余裕なんてないような気がします。でも、逆に一人暮らしだからいろんなことやってみようと思うのか、それとも大阪に来てやってみたくなったのか。その辺りどうですか？

大城 私が留学したのは、中国語を教えてください。先生がとても面白かったのと、同じように沖繩出身で台湾に留学した先輩の影響を受けたから。大教に来たからこそ挑戦できたと思います。

菊谷 最初の一年は生活することで精いっぱいでしたが、慣れてきたら、やりたいことがどんどん出てくるようになりました。

これからどう

吉村 これからどんな学生生活を過ごしたいですか？将来は教員志望ですか？

ファドワ 私はあまり頑張り過ぎずに、少しだけ頑張る性格なので、これからもそれを続けたい。



今の自分に満足している。本当に成長したと思う。将来も日本に住みたくて、だから日本で仕事をしたい。そのために、まず大学院に行きたいです。その後、日本で教員になりたい。

菊谷 1回生は生活に慣れることで手一杯だったけど、2回生はもう少し時間を有効に使えたなと後悔しています。3回生は勉強したいとか、いろんなことをやって見聞を広げたい。私は教員ではなく、スポーツ関連の会社に就職したいと思っています。できれば大阪とか東京がいいですが、場所を選ぶというよりは、行きたい会社があるかだと思っています。

大城 私は教員になるか企業に就職するかまだ迷っています。教員になるなら、沖繩に帰ります。今後は、本をもっと読みたいと思っています。学生の間にやった方がいいことってありますか？

吉村 学校教員になるなら、とにかくいろんなことをやってみることかな。教壇に立って子どもたちに話すことは、実体験が元になるから、引き出しがたくさんあれば、それだけいろいろ話せる。菊谷さんは教員になりたいと思うことはない？



吉村 まったく思わないな。あ、教育実習に行っている時は、毎日朝早く夜遅いので、実習校の近くに住みたいと思ったな。でも、実家なら夜遅く帰ってもご飯もお風呂も用意されているけど、一人暮らしだと全部自分でしないといけないので、どっちもどちですね。ただ、母親と弟からはずっと早く出ていけと言われてます（笑）。皆はホームシックになることはないの？

ファドワ 例えば兄や姉に子どもが産まれたと聞くと、会いたいなと思います。疲れている時は家事が面倒で、家に帰りたいなと思います。

菊谷 私は全然ない。

大城 大阪にいる時は、大体ホームシックです。

吉村 エーずつとなの！大丈夫？そういう私も、3日でホームシックになりそうだけど、誰かと話したくなったりしない？

菊谷 宿舍の友達がいるので大丈夫ですね。

ファドワ 確かに家に帰れば、人との関わりがない。エジプトとは7時間時差があって、電話もしにくい。バイトを始めた理由には人と関わりたいというのもあるなと、今初めて気づきました。

菊谷 ちょっと思っています。教育関係の授業を受ける中で、今までスポーツばかりで、教育について考えたことがなかったと気づきました。昔から、教員に向いていると周りからは言われていて、自分ではそう思っていなかったのですが、学んでみると面白いなと感じています。

後悔はない！

吉村 一人暮らしをする勇気がない人に、励ましの言葉をかけるとしたら？ また、そんな受験生に、大教をおススメするとしたら？そもそも、大教に来たことを後悔してない？

菊谷 第一志望に落ちて大教に来ましたが、むしろ良かったと思っています。大教に来なかった自分は想像できない。私の所属する教育協働学科は、文系・理系・芸術・スポーツというんな専攻があります。違う専攻の人たちと一緒に授業を受けることもあり、それぞれの知識を持ち寄って話し合ったりするの面白い。それに、大阪の人は温かくて、助けてくれるので大丈夫。目標をもって、頑張ってください。

大城 実家にいる時は、話さなくても家族が側にいる気があった。一人暮らしだとビニール袋の力サツという微かな音も響いて、一人だと実感して寂しくなることがあります。

大阪で始めたこと

吉村 大阪に来て、大学生になって始めたことってありますか？

大城 2年生の後期から、大学の交換留学制度で台湾に行きました。大学で中国語の勉強を始めて、意外と面白かった。留学してみよう。沖繩に近く、治安も良さそうだったので、台湾にしました。

吉村 また治安…。何をそんなに恐れているの（笑）。台湾ではホームシックにならなかった？

大城 全然なかったです。

吉村 なんてよ！

大城 気候とかが沖繩に似ているからですね…。

ファドワ 私は子どもと関わるボランティアやバイトをしています。子ども向けの料理教室や

大城 困っても家族を頼ればなんとかなるので、そんなに心配しなくてもいいんじゃないかと。最初1か月は本当に不安だったけど、時間が解決してくれまし。大教は、教育大学だけど、総合大学に近いと感じています。私が今学んでいることは、教育学部というより文学部のような内容だし、他にもたくさん専攻があるところがいい。立地だけは少し後悔していますが、ここでいい先生に出会わなければ留学もしなかったし、良かったなと思います。

ファドワ ここに来て良かった。楽しい。後悔は、全然ない。一人暮らしが不安な人には、失敗してもいいと言いたい。失敗しても怖くない。私は何回も失敗したからこそ、いろんなことができるようになった。1年たてば全部できるようになる。あとは、勉強も大事だけど、息抜きとか、あんまり頑張り過ぎないことも大事。

吉村 上手くバランスを取るということですね。

ファドワ そうです。それと私の周りは、皆先生になりたいという同じ夢を持っています。そういう人といことはモチベーションになります。他の大学に行って一人で教員免許を取ろうとしていたら、こんなに楽しくないと思います。

吉村 それは、間違いないと思います。教員をめざすのであれば、大教ほど適しているところはなないんじゃないかな。最初は教員志望でなくても、菊谷さんのように、いろいろ学んでいるうちに教員もいいなと思うかもしれない。迷っている人にも、迷ったために来たらと言いたいです。

【活動 Report】



産業技術総合研究所関西センターで開催されたイベントに参加



アルミニウムや銅、アクリルなど様々な素材の筒の中に磁石を落とし、落ちる速度の違いを説明



「静電遮蔽」を再現。金属の囲いに電気を流しても、中の人は感電しない



過酸化水素水に特殊な粉末を入れ、水と酸素に分離させる実験を披露



高校生を大学に招き、6つの実験を紹介する科学館を実施

理科の実験を楽しもう！
手作り科学館」

「音」や「光」などの性質を学べる実験教材を手作りし、実際に体験してもらう科学館を実施。

地域のイベントや学校を訪問し、子どもたちや地域住民に、理科のおもしろさや楽しさを伝えます。

学生のアイデアを応援!!

学生プロデュース

大学が学生から地域交流やボランティア活動など教育大学ならではの企画を募集し支援する「学生プロデュース」。

今年度採択された取り組みを紹介します。

【活動 Report】



技法や製作工程を取材



ハンカチやフリーペーパーのデザインを相談



大学祭「神楽祭」で取材内容を発表



柏原市内の工房を訪ね、注染染めを体験

柏原伝統工芸・注染染めによる大学オリジナルグッズ製作プロジェクト

本学がメインキャンパスを置く柏原市に古くから伝わる、手ぬぐいや浴衣の生地を染める伝統技法「注染」に着目。注染染めを使ったオリジナルデザインのハンカチを4種類製作します。また、その歴史、現状、染めの工程について取材し、ポスターを作成して大学祭「神楽祭」で紹介。ハンカチは、注染染めを紹介する冊子をそえて配布します。

【代表者インタビュー】
大学院教育学研究科
理科教育専攻2回生
田崎賢也

イベントにどんな教材を持って行くかは、主な対象となる方にあわせて、みんなで相談して決めています。例えば小学校に行く時には、目で見てわかりやすいものや体験できるものが人気ですが、高校生はそれだけだと退屈してしまうので、少し複雑な説明が必要なものを選びます。

難しいのは説明の仕方です。相手がどの程度知識を持っているかを話しながら探り、どう説明したらわかりやすいか考えながら、説明する内容を变えていく必要があります。他の人がどう説明しているかを見て学ぶことも多いです。イベントが終わると、アンケートを見ながら皆で反省会をします。あまり評判が良くなかった実験は、なぜそういう結果になったのかを考え、次に活かすようにしています。

担当者との連絡調整がうまくいかなかったり、運んだ実験教材が壊れて急ぎで修理したりと、想定外のトラブルが起こることも多いです。でも、皆さんが楽しんでくれているのを間近に見ると、そんな苦労も吹き飛んで、やって良かったと思えます。理科教員になるための勉強になるのはもちろんですが、子どもに理科の楽しさを知ってもらい、少しでも興味をもってもらえるような活動に参加できることが何より嬉しいですね。

その他の企画

バリアマップの作成



学内のバリア（障がい）となり得る場所や事柄などを記載した地図を作成し、バリアを解消する方法を学内に発信する。

外国人児童への日本語支援と図画工作科のアプローチ



図画工作の授業を外国人児童に対する日本語支援に役立てることが可能か、ワークショップの実施などを通して検証する。

DAIKO ALLY WEEK



本学学生に、自分の中にある差別意識や偏見に気づき、多様性を認めることはどういったかを考えてもらい、イベントを、1週間にわたり実施する。



とどけよう!! みんなのこえ!!
震災復興コンサートvol.6
柏原市の子どもたちとの合唱や災害に関するワークショップを通して、東日本大震災を始めとする近年起きたさまざまな災害を振り返り、記憶の風化を防ぐ。



展示されているハンカチを撮影しSNSに投稿すると、くじで当たった柄のハンカチがもらえる

私には、ぶどう柄のハンカチをデザインしました。布に染めると、にじんだり少し崩れたりして独特の風合いになり、想像よりかわいく仕上がりました。大学祭での展示では、多くの方にハンカチをかわいくと言っていたことが何より嬉しかったです。予想外だったのは、お客さんたちがくじ引きで盛り上がりつつあったこと。お目当ての柄が当たった、外れたと楽しそうでした。

注染でぬぐいを製作・販売している「CHILL」さんと染め工場の方には、とてもお世話になりました。作業の手を止めて質問に答えてくださり、写真を撮りやすいよう配慮もしてくださいました。また、ハンカチのデザイン面でも無理を聞いていただきました。大学祭で多くの方から「柏原に注染染めというものがあるの知らなかった」と言われ、発信のお手伝いができたことほっとしました。

振り返ると、大変だったなと思います。あちこちと調整したり、みんなの意見を無理やりまとめたり。気持ちを抑えることを学び、忍耐強くなりました。終わった時は達成感よりも、無事やり遂げた安心感が勝りました。反省点は議事録をきちんと取らなかったこと。情報共有ができていなかったり、認識が違っていたりして混乱することがありました。

Twitterでの反響も大きく、想定より早くハンカチがなくなり、プロジェクトは成功したと思います。私自身、もともと人に頼み事をするのが苦手でしたが、今回代表を務めたことで、人を信じて任せることができるようになり、成長できました。

【代表者インタビュー】
教養学科芸術専攻3回生
田村彩恵



Athlete's View

体などに装着し、臨場感あふれる映像を記録できるカメラを使って、アスリート視点の動画を撮影しました。

大阪教育大学 体育会

LACROSSE 阪上 陸

さかうえ りく

教養学科人間科学専攻 3回生
ポジション：ミッドフィルダー

成長を実感できる 自分の居場所

高校までは野球をやっていたのですが、大学で新しいことを始めようと男子ラクロス部に入学しました。今まで辞めたいと思ったことはありません。部員とはプライベートでもよく一緒に遊びます。みんな、ここが自分の居場所だと感じています。魅力のある人がたくさんいて、卒業後もずっと仲良くなりたいです。

ラクロスの魅力は、自分の成長を感じられるところ。ほとんどの人が大学からラクロスを始めるのですが、だからこその子どもの頃と違い、この練習をやったからこの技ができるようになったなど、成長の過程を感じられます。

チームの目標は、一部リーグでベスト4に入ることです。先輩たちが繋いでくれた一部という舞台で、自分たちのラクロスをしたいです。個人としては、プレーでも人間としても、信頼され皆を引っ張っていけるようなキャプテンになりたいです。

DATA：男子ラクロス部

2004年創部。部員数67人(2018年5月現在)
2018年度の第29回関西学生ラクロスリーグ戦・男子2部リーグで優勝、1部リーグへ昇格。



GYMNASTICS 坂本 陽平

さかもと ようへい

教養学科スポーツ専攻 3回生
好きな種目：床、鉄棒

いろんな個性に 出会える部

小学校5年生頃から本格的に体操を始め、楽しくて今まで続けてきました。技が狂ってしまったり、上手く出来なかったりすると、自分が嫌になって、辞めたいと何度か思ったこともありましたが、周囲のサポートのお陰で、なんとか乗り越えてきました。

体操をしていて怖いと思うこともあります。特に新しい技に挑戦する時は本当に怖い。恐怖心は試合にも影響するので、怖くなるまで練習を重ねます。

体操競技部は、個性の集まりです。慎重に技を進める人、行ってしまえと勢いでやる人、失敗しても全然気にしない人、何も考えなくてもできてしまう天才肌の人。本当にいろんな人と出会うことができる部です。来年は4回生になるので、まだ出たことがない全日本学生体操競技選手権大会に、個人出場したいです。また、引退までに後輩たちに、伝えられることは全て伝えておこうと思っています。

DATA：体操競技部

部員数6人(2018年5月現在)
第56回近畿地区国立大学体育大会(体操競技)
団体総合2位(女子)、個人総合優勝(男子・女子)





大阪教育大学

附属学校園ウォッチ

Affiliated School | Osaka Kyoiku University



OSAKA KYOIKU UNIVERSITY'S

TOPICS

学生らがサッカーJ1の試合でパフォーマンスを披露 01

本学とパートナーシップ協定を結んでいるサッカーJ1・セレッソ大阪の主催試合で、芸術表現専攻音楽表現コースの学生らが結成した「Dailyo Jazz Orchestra」モダンダンス部、本学公式キャラクター「やまおが、試合前パフォーマンスを行いました。1曲目は『望遠鏡の外の景色』でスタイリッシュに決め、2曲目の『NIPPON』ではセレッソの旗を振りながら、はつらつとした演奏とダンスを披露しました。最後にセレッソの応援歌「CRENO(クレン)満開」が始まると、やまおが登場。ダンサーたちの中心に立ち、一緒に踊りました。ハーフタイムには、セレッソのチームキャラクター「マダム・ロビーナ」とやまおがフィールドに登場し、観客席から声援を受けました。セレッソが勝利をおさめると、やまおは再びロビーナと共にフィールドに立ち、勝利の舞を踊りました。

Dailyo Jazz Orchestra代表の教養学科芸術専攻音楽コース3年生・清川大地さんは、「スタジアムの大きさに驚きましたが、モダンダンス部と練習を重ね、自信をもって本番に臨めました。両チームのスタンドから大きな拍手をいただけて嬉しかったです」と喜びました。モダンダンス部の学校教育教員養成課程音楽教育専攻3年生・名田昌美さんは「オーケストラの素敵な生演奏とサポーターの皆さんと一体となって会場を盛り上げるのができ、とても良い経験になりました」と話しました。



多様性や生き方について考える リビング・ライブラリーを開催 02

多様な人との出会い語り合うイベント「リビング・ライブラリー」を附属図書館本館で開催し、学生、教職員ら約40人が参加しました。

リビングライブラリーとは、人を「本」に見立て、「本の役の人」と「読者」である参加者が対話し、相互理解を深める試みです。同イベントは、多様性や自らの生き方について考えるきっかけにもなろうと学生グループが企画した「DAIKYO ALLY WEEK」の取り組みの一つとして、図書館との協働により開催されました。

当日は10人が「本」として招かれ、LGBTや子どもの貧困、障がいなどについて自身のライフストーリーや、現在の思いについて語った後、「読者」と意見交換しました。「本」の一人、本学卒業生で外国にルーツのある小学校教諭は、「同じように外国にルーツのある子どもたちに元気をあげたいと頑張っている。ただ、今の学校では自分のルーツをいい形で発揮できているが、転勤などで環境が変わるのは怖い気持ちもある」などと「読者」に話していました。また、図書館内では「DAIKYO ALLY WEEK」のテーマに関する書籍を集め、特集展示を行いました。

参加者からは、「ネットやSNSを使った今の時代特有の部落差別の現状を知ることができた」「LGBTの子どもにこの人になら話せるかも」と思ってもらえる養護教諭になりたい」などの感想が寄せられました。



教職大学院の授業研究会に海外協定校からゲストが参加 03

連合教職大学院が、授業研究会を1月23日(水)に天王寺キャンパスで実施しました。

木原俊行教授、福永光伸教授が担当する授業「学校を基盤とするカリキュラム開発」で行われた授業研究会には、本学海外協定校であるソウル教育大学から朴相哲教授、呉成哲教授をゲストに迎えたほか、担当以外の連合教職大学院の教員も参加し、担当教員や学生らに質問や助言などをしました。

同授業は、学校を基盤としたカリキュラム開発についてその理論を習得し、実践できるようにすることを目標としています。この日は、グループ毎にこれまで構想してきた新教科・領域を具体化するために、年間指導計画から一つの単元を選んで指導計画を作成し、その概要を発表しました。中学校の教科「家族のなぜ科」を考案したグループは、家族という概念の背景を学んだ上で、映画や漫画などに描かれている家族像を調査、比較し、家族の本質について考える1年生の授業の構想を説明。発表した学生は、「外国にルーツを持つ家庭やひとり親世帯など、家庭が多様化する中で、子どもたちが家族との関係を見つめ直すきっかけになればと考えました」と、新教科を提案した経緯を述べました。

朴教授は「カリキュラムの開発は、教員が積極的に参加して学校の実情に合わせる」とや、教員間の意思疎通が大切。皆さんの活発な議論を見て、明るい未来があると感じました」と感想を述べました。



「小さな勇気を出す習慣を」義足の陸上選手・中西麻耶さんが講演 04

右足が義足の陸上競技選手である中西麻耶さんが、健康安全科学講座の榎木泰介准教授が担当する授業で講演しました。中西さんは、ソフテニスで国体出場をめざしていた2006年、仕事上の事故で右足に大けがを負い、膝から下を切断しました。その翌年から陸上競技を始め、北京、ロンドン、リオのオリンピックをはじめ数多くの世界大会に出場。2018年10月のアジアパラ大会では、走り幅跳びで金メダルを獲得しています。

講演で中西さんは「一刻も早くスポーツに復帰するために温存治療でなく切断を選んだことや、アメリカでの極貧生活、引退宣言から復帰に至るまでの心境など、波乱に満ちた人生を明るく話しました。そして学生たちに対し、「勇気を出す習慣をつけることが大切。普段から小さな勇気を出していれば、いざという時に大きな勇気を出すこともできます」と語りかけました。

受講した学生たちは、「苦しい状況でも、その時自分にできることを精一杯やるのが大切だと感じた」「どんなときも前向きな中西さんの姿に、自分も頑張ろうという気持ちになった」などと感想を寄せました。榎木准教授は「学生たちが、パラアスリートや障がい者でなく、中西麻耶さんの話として聞いてくれたのが嬉しい。今日の話をきっかけに、勇気を出して行動を起こしていってほしい」と話しました。



世界に貢献するグローバルリーダーに 附属平野高で研究発表会を開催



本学附属高等学校平野校舎による、「スーパーグローバルハイスクール(以下、SGH)研究発表会」が1月12日(土)に開催されました。

同校は、文部科学省が推進する、国際的に活躍できるグローバルリーダーの育成をめざすSGHに指定されています。「多面的に“いのち”について考えるグローバル・リーダーの育成」をメインテーマに、生徒が「医療・保健」「防災・減災」「格差・貧困」の3領域にわかれて研究に取り組んでいます。今回の発表会では、1、2年生全員が3〜5人のグループを組み、1年間の課題研究の成果を発表しました。また附属平野中学校の生徒や、近畿圏のSGH指定校の生徒も参加し、計84組が口頭発表やポスター発表を行いました。

午前の部は予選会として、附中附高の生徒が口頭発表を行いました。二酸化炭素の排出量を抑える植物の研究や、訪日観光客が病気や怪我をした際に症状を伝えるレスキューシートを改善する提案など、多彩な研究発表が次々と行われました。

午後の全体会では、午前の発表で来場者の評価が高かった優秀班3組と、大阪府立北野高等学校が口頭発表しました。アジア諸国に輸出されるプラスチックゴミの問題を取りあげた2年生のグループは、日本からの輸出量を調べ、1日1人あたり空のペットボトル1本分のゴミを減らせば、輸出せず国内で処理できると説明。そのうえで、「まずは問題を知ってもらうためのパンフレットを作りたい。次に学校、会社、公共施設などに、ゴミ箱を撤去することでゴミ問題を考えてもらう『Noゴミ箱DAY』の実施を提案したい」と語りました。

全体会の前には、全84組のポスター発表が行われました。2年生のあるグループは、カンボジアの教育の質や進学率の低さを解消するため、ワークショップやオンライン教育を活用することを提案。研究内容を解説した生徒は、「海外研修で行ったカンボジアは、学校に行くのが当たり前の日本とは全然違いました。すべてを解決はできませんが、解決にできるだけ近づけるような独自の案を作ろうと頑張りました」と話しました。

同校の堀川理介副校長は、「納得できるまでテーマ設定に取り組ませたり、根拠を重視する学習を取り入れたりすることで、発表の質は年々向上しています。また、学校や年齢が異なる人々の前で発表する経験を通して、自身の理解を深め、自信につながっています。今後もカリキュラムの改善を続けるとともに、SGHを通してできた人的ネットワークをもっと広げていきたい」と抱負を語りました。

附属天王寺小の音楽鑑賞会を柏原キャンパスで開催

附属天王寺小学校の音楽鑑賞会を、柏原キャンパス音楽棟ホールで開催しました。約700人の児童が、教育協働学科芸術表現専攻音楽表現コース学生らによるオーケストラの生演奏を鑑賞しました。

鑑賞会では、ベートーヴェン作曲「交響曲第5番 “運命”」、チャイコフスキー作曲「白鳥の湖」より「情景」など、なじみ深い名曲を数多く演奏。合間には曲に関連するクイズを出題するなど、飽きさせない工夫も凝らしました。子どもたちは、楽器紹介のコーナーでチューバなどの大きな楽器が登場すると「すごい!」と歓声をあげたり、アニメ映画の主題歌が演奏されると一緒に歌い出したりと、元気がいっぱい音楽を楽しみました。最後はオーケストラの演奏に合わせ、全員で「BELIEVE」を合唱しました。

芸術表現講座の神代修教授は、「附属学校園を対象とする鑑賞教室を柏原キャンパスで開催したのは初めてだと思います。児童の皆さんは、普通のコンサートでは体験できない近い距離での生演奏に大興奮の様子でした。また学生たちにとっても、子どもたちの美しく情感のこもった歌声との共演は、忘れられない思い出になったと思います。このコンサートが、今後さらに附属学校園との連携が深まるきっかけになれば嬉しいです」と話しました。





表紙作品:「自然のうつろいⅡ」(部分)

教養学科芸術専攻絵画ゼミ共同制作作品

油彩/アクリル/コラージュ/キャンバス/パネル 110cm×540cm 2017年

作者:辻元美穂、西端みずほ、今川日菜子、河内瑞葉、下浦萌香、正野綾花、
藤本梨沙子、矢崎友美子、大塚夏菜、尾崎晴菜、小西結衣、佐々敦子、福島愛

公式アプリケーション Android・iOS スマートフォン対応アプリ

大教大NAVI
大阪教育大学入試ナビゲーター

天遊の
動画も
見れる

取材時のオフショットや、紙面では伝えきれないイキイキとした学生・熱意のこもった教授などのナマの声を動画で配信!
〈詳しい使い方はホームページをご参照ください〉

App Store・Google Playから検索。



大教大



天遊 特別号 (vol.47) 2019年3月発行

企画・編集・発行／
国立大学法人大阪教育大学広報室
〒582-8582 大阪府柏原市旭ヶ丘4-698-1
TEL.072-978-3344 FAX.072-978-3225
E-mail kouhou@bur.osaka-kyoiku.ac.jp
<https://osaka-kyoiku.ac.jp>

